



開発調査の現場から

No.5

高知県幡多郡黒潮町鈴地区での定置網調査について

開発調査センター 小田憲太郎 清水弘文

開発調査センターでは、平成28年度より高知県と連携して、高知県幡多郡黒潮町鈴地区で大型定置網の収益性改善の可能性調査を行っています（図1）。



図1 鈴地区の位置と風景

鈴地区大型定置網の調査は、平成26年度にビジネスモデル事業の公募を行い、採択されたものです。平成27年度は予備調査を行い、平成28年度からビジネスモデル事業として2年間の計画で調査が行われました。

鈴地区は人口91名の集落であり、定置網が主な産業で、鈴共同大敷組合（村張り）によって経営されています。操業は台風時期の8～9月を避けて、10月後半から翌年7月の約10ヶ月間行われます。定置網が休漁する夏期は、網補修作業のほか、イセエビの刺し網漁等で生計を立てる漁業者もいます。漁獲の主体はマアジ、さば類、ブリ、いわし類となっています。過去10年の年間水揚量は約100～400トン、水揚げ金額は約

2400万～7100万円で推移しています。就業者は事務員1名を含め10名いますが、その平均年齢は60才を超えており、今後、後継者が現れないと定置網漁業の存続が危ぶまれている状況です。そのため地元では、網の沖出しと船の大型化を行うことで生産力を高め、所得を向上させることによって新規就労者を確保するという定置網漁業の存続シナリオを考えています。



写真1 操業風景

このビジネスモデル事業では、操業の効率化、資源の有効利用、流通販売改善の大きく3つの項目を柱に立てています（図2）。

「操業の効率化」では、小型の深度計とGPSを用いて、潮流の影響による網形状の変形をモニタリングしています。定置網では、網の形の変化が漁獲量に大きく影響するからです。また、潮流計を設置し、網の変形の要因を把握するためのモニタリングもしています。そのほか、現在の操業にお

ける漁具や装置の配置や作業順序、時間配分などの作業パターンが合理的であるか検証を行っています。



「資源の有効利用」については、海底地形調査、魚群分布調査により、定置網が海底地形やその影響を受ける魚群の行動に対して適切な位置に設置されているか検証しています。また、網を沖出しした場合に漁獲される魚種と漁獲量の検討のため、網の沖側等でも設置型魚探や計量魚探による調査と刺し網調査を実施しています。そのほか、水揚伝票整理や漁獲物測定等から漁獲物組成を把握し、設置した潮流計のデータ、過去の海況データと照らし合わせて、どの様

な海況の時に、どの様な魚種が網に入るかを予測することを試みています。このような漁海況予測が可能になれば、毎日水揚げせずに市況情報に応じて金庫網に蓄養し出荷調整する等、販売戦略が立てやすくなると考えています。

「流通販売改善」では、販路の多様化、活けめめ等による高鮮度製品の生産、未利用魚の活用などを行っています。販路の多様化では、高知県の取組である「高知家」の活用による“地産外商”や、JF こうち「海の漁心市」の協力による“地産地消”の取組を利用し、鈴定置漁獲物を試験的に販売し、消費者アンケート等を行っています。また、これまで販売対象とはならなかった未利用魚のうち、販売に結びつく可能性のある魚種の洗い出しを行い、未利用資源の有効利用を図ろうとしています。

これらの調査は平成29年度末までを目処に行い、その後はデータの解析およびフォローアップ調査を行う予定です。調査結果は漁業者、高知県へ引継ぎ、今後の改革への参考にしていただく予定です。

